一話の訪れないプロローグ。

一木 樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一話の訪れないプロローグ。

【Ｎコード】

Ｎ４８５２Ｐ

【作者名】

一木　樹

【あらすじ】

ちょっと特殊な感性をお持ちな放浪者の戯れ言

（前書き）

何でもない。ただの持論。場違いだけどまあいっかな。

人は何のために生まれたのか。

時折、そんな命題を見かける。それは物語の中で、登場人物がその答えを探していることもあれば、真面目に論文の様な形に書かれることもある。

ん、ここで面倒な話だ、と思った人もいるだろう。しかし私は今回、その問いについて正面から思案するつもりはない。まあ結局面倒な話には変わりないのかもしれないが。

私は、何故その問いが生まれたのか、と考える。

人間に関わらず、この地球上の全ての生命は、「子孫を残す」そのために生きている。それは生物学的にも証明されている通りだ。生殖の為にはまず生き残らなければならない。これは俗に言う生存本能というもの。この本能とは、他にも様々に区分されるのだが、突き詰めるとやはり「子孫を残す」ことを目的としている。それは種の総意であり理。

この論理を用いると始めの問いの答えは自ずと「子孫を残す」為、となる。しかし私はそんなことの為にはつらつらと思案を巡らせた訳ではない。

人が他の生物と決定的に違う部分。それは「知性」だ。知性の存在により人類はこの惑星の頂点に君臨することができた。この結果

からもわかるように、知性は本能が生殖の為に必要だと判断し、発達したものだと考えられる。

では、人は何のために生まれたのか。という問いに話を戻そう。もし、人に知性が備わらなければ、このような疑問が生まれることは無かっただろう。しかし、この問いの答えを見つけることにも、考えることにさえ、「子孫を残す」ことと明確な因果関係を見つけ出すことは出来ない。

ならば何だ。本能を飛び越え生まれたこの問いは。これだけではない。人の考え得る様々な事象と「子孫を残す」ことを比べる。

もはや、人は本能の域を越えてしまった。種の総意を、超越してしまった。

ならば考えるしかないだろう。見つけるしかないだろう。この本能を超越した知性が存在する意味を。その理由を。

私は思う。人は、決めなければならない。「子孫を残す」こと、そしてそれに付随する生きることとは違う、新たな「本能」を。自分の意思で。

それは、知性を獲得した人間の、人間だけの義務であると、私は思うんだよ。

それじゃあ、教えてくれないか。君の生きる意味を。

（後書き）

特に展開する気無し。実際作者の戯れ言。

もし熱烈に続きを所望されたら考えるかも（後書きすら戯れ言）

まあこんな無意味な文字の羅列に付き合ってくれた方はありがとうございました。

では、またどこかで。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4852p/

一話の訪れないプロローグ。

2011年8月10日17時35分発行